H30.10.12
神静民報

撃隊の手助けをした地元民の記録、関連写真（戦場となった当時の三枚橋や山崎周辺）、解説文などで構成するパネルをメーンに展示する。

同館では「歴史が好きな人などは遊撃隊をよく知っている。当時の小田原藩や箱根の資料から見た戦争などを知ってもらうきっかけになれば」などと話している。

入館料は一般300円、65歳以上と小・中学生150円。箱根町民は無料、土・日曜と祝日は小・中学生無料。開館時間は午前9時から午後4時半（入館は同4時まで）。問い合わせは、同館（☎0460―85―7601）へ。

また、来月16日にはミュージアム・リレー25走として、展示解説を予定している。時間は午後2時から午後4時。参加費は無料。定員は20人（先着順）。希望者は前日までに同館へ電話で申し込む。

修繕が必要な状況だった。

原さんは定置網の枠組みが破損し、一から再整備しなければならない状態に。過去にも経験がないというほど甚大なダメージを受け、「億に届く」と被害の深刻さを語る。

この状況に、「助けなくてはいけない」と感じた買受人組合と魚市場は、水産団体に声を掛けて募金協力を依頼。集まった浄財を等分し、同市早川の魚市場で2人に手渡した。

古川組合長は再開へ

からことを願った。

2人は水産団体からの義援金について、本当にありがたいと感謝。漁網などの資機材購入や生活費として活用する予定で、定置網漁の再開時期は今月中から来月程度を見込んでいるという。

みんなで読もう
郷土の日刊紙

ィバル
時開催
14日

「鉄道の町 山北D52フェスティバル」が14日午前11時から、JR御殿場線山北駅近くの鉄道公園や同駅周辺

2時、3時、3時50分からの1日6回。このほかミニSLの運行やプラ電車の展示、塗り絵、スタンプラリー。

クセサリーや雑貨、健康食品、各地のご当地グルメ（シュウマイ、肉まん、広島焼き、大阪ポテト、豚足、手羽

生鮮食

10

◇小田

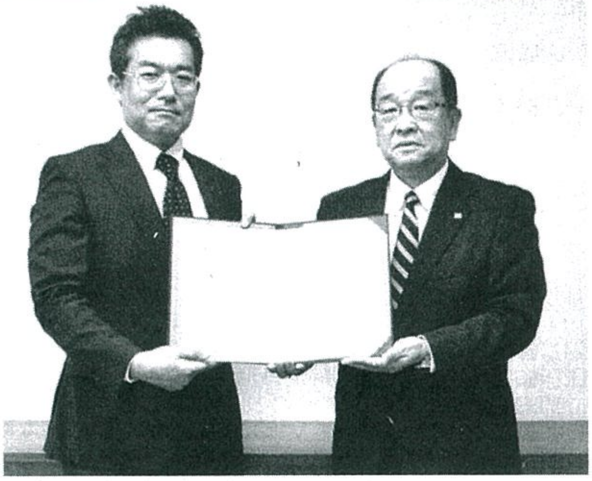
①＝きわだ　②＝

番号	品名	産地
①	まぐろ	冷凍
②	まぐろ	冷凍
③	あじ	近海
④	あじ	各地
⑤	さば	近海
⑥	さば	各地
⑦	いか	近海
⑧	いか	各地
⑨	やりいか	各地
⑩	さんま	各地
⑪	きんめ	各地
⑫	はまち	近海
⑬	はまち	各地
⑭	ぶり	近海
⑮	ぶり	各地
⑯	かつお	近海
⑯	かつお	各地
⑰	いわし	近海
⑱	いわし	各地

◇小田

番号	品名	単位
①	だいこん	本
②	かぶ	束
③	にんじん	キロ
④	ごぼう	キロ
⑤	こまつな	束
⑥	ほうれんそう	束
⑦	キャベツ	個
⑧	レタス	個
⑨	地ねぎ	束
⑩	いわつき	キロ
⑪	玉ねぎ	キロ
⑫	なす	キロ
⑬	キュウリ	キロ
⑭	トマト	キロ
⑮	じゃがいも	キロ
⑯	里いも	キロ
⑰	さつまいも	キロ
⑱	はくさい	キロ

事業承継Cと提携
課題解決へ さがみ信金


左から金子社長、秋葉理事長

さがみ信用金庫（秋葉勝彦理事長、本部小田原市浜町）はこのほど、事業承継センター株式会社（金子一徳社長、東京都港区）と、顧客の事業承継ニーズ支援を強化するための契約を締結した。

本部で先月21日に手交式があり、秋葉理事長と金子社長の間で、締結に関する書類が取り交わされた。

事業承継センターは個人相続、事業承継、日本再興の3つのレベルでの社会貢献を目指すコンサルタント集団。各業界の専門家によって設立された「事業承継士」の資格を保有し、事業承継専門の案件に対応できる。

同信金は同社と連携することで、事業承継や相続問題をはじめとした顧客の各種課題に対し、さらに一歩踏み込んだ支援策の提案を目指していく。

今回の提携により両者は知恵を出し合い、地域にとっても大きなテーマである事業承継の支援に取り組む。

背景にあるのは、地域経済の維持と成長に不可欠な中小企業の存続と発展が、事業承継難によって失速しかねないという現実。

全国で年間3万件弱の企業が、後継者がいないなどの理由で休業や廃業に追い込まれているといわれ、対策は急務。来年4月には関連税制が大幅に改正されるなど、国の支援の動きもある。

同信金は先月上旬にも、企業経営の支援を行う独立系プロフェッショナルファームのフロンティア・マネジメント株式会社（大西正一郎社長、東京都千代田区）と提携。

事業承継支援の強化を図り、「今後もニーズに応じた質の高いサービスを提供していきたい」としている。

殴る蹴るなど暴行
箱根の23歳男逮捕
小田原署

小田原署は11日、傷害の疑いで、箱根町湯本の工員石田浩之容疑者（3）を逮捕した。

尻餅をついた平蔵に背を向けるや、喜助は足をよろめかせながら店を飛び出した。思わぬ成り行きに固唾を呑んでいた掘子仲間が、大急ぎでその後を追う。

平蔵は彼らの足音が遠のくまで、開け放たれた板戸の外をじっと見つめていた。だがやがて、肩がすぼむほどに大きな息をつくと、緩慢な仕草で立ち上がった。

「大丈夫か」

渓瑞が気遣わしげに声をかける。その背についた泥を手ぬぐいで払ってやりながら、「なんとまあ、乱暴な男じゃ」と毒づいた。

て来た。

「それ、お飲みよ」

差し出された湯呑を両手で包み込み、平蔵はひと息にその中身を飲み干した。かろうじて人心地がついた様子で、「それにしても喜助が――」とひとりごちた。

「あんた、どうしても喜助と話がしたいってのなら、七つ時すぎにもう一回、ここに来りゃあいい。あいつら、ひと仕事終えたあとは、必ずここの飯を食いに寄るはずだぜ」

奥で飯を食っていた与平次が、厨の徳市を箸で指す。しかし平蔵はそれに小さく首を横に振り、「いえ、止め

連続！　ング

第81回秋季親睦ゴル